

總務省統計局提出資料

生産物分類の策定に関する意見等

平成29年7月28日
総務省統計局

生産物分類の策定に関するスケジュールについて

- 平成33年経済センサス-活動調査試験調査については、平成31年度に実施する予定であるが、調査票の設計、調査書類・用品及び電子調査票の作成・調達等を考慮すると、サービス分野の生産物分類（案）を、可能な限り早期に策定する必要。

経済センサス-活動調査の実施状況及び実施状況を踏まえた意見、留意事項

- 経済センサス-活動調査では、産業細分類（約200分類）別に把握している一部のサービス分野においては、記入負担（「分類表」の多くの分類区分の内容例示を見て回答する必要）や記入困難性（自社の事業がどの分類区分に該当するか分からない）の問題から、多くの記入漏れが発生。このため、調査員や市町村の疑義照会による補記訂正を含め、調査票の審査に多くの行政コスト（人的リソース等）を投入して結果精度を確保しているのが現状。



- したがって、生産物分類の経済センサス-活動調査への適用に当たっては、記入者負担の抑制や行政コストの制約の下で結果精度を確保できるものである必要があり、試験調査等による記入精度の検証結果を十分踏まえて決定する必要。
- なお、産業分類と対応しない需要側視点による生産物分類を適用した場合、産業細分類格付けが困難（産業小分類が限界）となることについても留意が必要。